

「流出予測（基本高水）」の算定条件

1) 入力降雨条件

1.1) 引伸し方法

- ・ 100 確率降雨として 242 (mm/24h) を採用 .
- ・ 無降雨時間が 6 時間 (洪水到達時間) 以上であれば別降雨とする .

1.2) 引伸し倍率と棄却基準 (降雨分布形の作成)

- ・ 引伸ばし倍率に上限 (例えば, 2.0 など) を設ける場合, 引伸ばし倍率の上限値
- ・ 「棄却基準」を適用する場合, 「基準」の設定

1.3) 実績降雨の観測点数と流域分割について・・・ティーセン法の適用

2) 斜面 (流域) 条件

2.1) 土地利用状況の設定 (治水対策などに関わる条件設定を除く)

2.2) モデル定数 (有効降雨量の算定に関するモデル定数) の設定

- ・ 飽和雨量 R_{sa} , 1 次流出率 f_1 と飽和後流出率 f_{sa} の設定
- ・ 山林の飽和雨量 $R_{sa} = 50$ mm の設定と標準値 $R_{sa} = 150$ mm との整合性 .
- ・ 山林の飽和雨量 $R_{sa} = 50$ mm の設定と, 畑地の $R_{sa} = 300$ mm および市街地の $R_{sa} = 55$ mm の整合性 . (畑地の $R_{sa} = 300$ mm は, 山林などの設定値に基づいて設定し直す ?)
- ・ 畑地面積が流域面積に占める割合 (甲武橋で (畑地面積)/(流域面積) = $5.3 \text{ km}^2 / 500 \text{ km}^2$)
- ・ 山林の飽和雨量 R_{sa} 値の最小 2 乗法などによる算定 .

[モデル定数 C]

- ・ 水田・(池) 以外は, 標準値 (土木技術資料 1977) を採用 .
- ・ 水田・(池) は, 再現・同定の結果として, $C = 800$ (標準値 1000) を設定 .

[流出率 f_1 と f_{sa}]

- ・ 山林は, $f_1 = 0.3$ (標準値 0.25)
- ・ 畑地は, $f_1 = 0.3$ (標準値 0.15), $f_{sa} = 1$ (標準値 0.6)

3) その他